



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4364号 2018.5.7 発行

呉秀三 精神医学の祖、教え今に 業績伝える記録映画 毎日新聞 2018年5月7日

呉秀三について今井友樹監督（右）のインタビューに答える原田憲一医師（左）。右から2番目はプロデューサーの中橋真紀人さん＝東京都中野区で2018年4月6日、成田有佳撮影



100年前、自宅閉じ込め批判

日本の精神医学・医療の祖といわれる医師、呉秀三（1865～1932年）の業績を伝えるドキュメンタリー映画の制作が大詰めを迎えている。呉は精神障害者を自宅のおりに閉じ込める「私宅監置」を批判し、精神医療の改善を進めたが、撮影中には障害者の家庭内監禁事件が相次いで発覚した。制作スタッフは今年完成する映画を通じ「呉が100年前に問いかけたことを改めて考えてほしい」と訴える。【成田有佳】

「全国の職業能力開発校のモデルに」 精神障害者の訓練拡充で新校舎



福祉新聞 2018年05月07日 編集部
生徒にコーヒーを運んでもらった小池知事

国立の施設として東京都が運営する東京障害者職業能力開発校（東京都小平市）の新校舎がこのほど完成し、4月18日に落成記念式典が開かれた。厚生労働省は精神障害者や発達障害者の受け入れを拡充する方針で、同校を「全国の職業能力開発校のモデルにする」と位置づけている。

式典で小池百合子・都知事は「都としてカリキュラムを改正した。グループワークを導入し、職場定着のサポート体制も充実した。温かい見守りの目でこの施設を運営したい」とあいさつ。式典後は校内の模擬喫茶店などを視察し、生徒に「自信を持って頑張ってください」などと声を掛けた。

同校の訓練科目は12科あり、年間定員は260人。身体障害者のみ受け入れていた科を刷新し、10科で精神障害者、発達障害者の入校を可能とした。

今年4月に入校した90人のうち精神障害者と発達障害者は約4割。同校は日常生活を見守る生活指導相談員や、就職後の定着を支える職員をそれぞれ2人増員して対応する。

職業能力開発校の間では精神障害者、発達障害者は集団での訓練になじまないとの見方があるが、同校は「少しずつ受け入れを重ね、ノウハウを蓄積してきた」（米澤義正校長）

という。

新校舎は2階建てで延べ床面積は約7200平方メートル。工事費は28億円で全額国が負担した。2018年度の運営費予算は約6億2000万円（国と都が負担）。これまでの定員充足率は約6割、就職率は約8割で推移していた。

同校は1948年に発足し、80年に校舎を改築。法改正に伴い、93年に現在の名称になった。入校時期は一部の科では年4回あり、今年7月の入校生は5月25日まで募集している。訓練期間は科によって3カ月、半年、1年と異なる。

敷地内に寮（全室個室で家賃・光熱水費は無料。食事提供はなし）を24人分新設したが、入れるのは身体障害者のみ。「夜間に精神障害者や知的障害者が落ち着かなくなったら対応が難しいため」（教務課）という。

職業能力開発校は職業能力開発促進法に基づくもので、授業料は無料。条件を満たした生徒は訓練手当などを受給しながら学べる。一般校（国立57校、都道府県立150校）、一般校に通うのが難しい障害者向けの障害校（国立・県立で計18校）がある。

障害校の14年度の入校者1437人の半数は身体障害者で、精神障害者は18%と少ない。厚労省は精神障害者、発達障害者の求職が増えている現状を踏まえ、16年8月、障害校での受け入れを促す方針を検討会報告書にまとめた。

厚労省は同校について式典で「他の障害校に先駆けて、精神障害者、発達障害者の訓練の実施・強化に応えられる施設として運営することが可能になった」（加藤勝信大臣）とのメッセージを発表した。

「やまゆり園」建て替え工事開始

共同通信 2018年5月7日

2016年7月に入所者19人が刺殺されるなどした相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で7日、建て替えに向けた工事が始まった。神奈川県は18年度中に事件現場となった2つの居住棟などを撤去。19年度に新施設の建設に着手し、21年度の開設を目指す。

県が昨年10月に公表した再生基本構想によると、相模原市の現在地と、利用者が仮移転している横浜市の「芹が谷園舎」周辺の2カ所に小規模施設を整備。既存の県立施設も活用して全利用者130人分の居室を確保する。

県は16年9月、利用者家族らの意向を踏まえて現在地での大規模建て替えを決定したが、障害者団体などから異論が相次いだ。そのため福祉の専門家らでつくる会議が昨年8月、複数の小規模施設整備を提言した。

俱知安の「えぞふじ納豆」 全国鑑評会で初入賞 障害者就労施設で製造

北海道新聞 2018年5月7日



えぞふじ納豆を手にもつ全国納豆鑑評会の入賞を喜ぶ羊蹄セルプの利用者ら

【俱知安】町内の障害者就労支援施設「羊蹄セルプ」で製造開始から22年目を迎えた「えぞふじ納豆」の生産が順調だ。町内外のスーパーやホテルなどに納入し、年間の生産は80万個、売り上げは約3千万円を維持している。2月の全国納豆鑑評会では初入賞を果たし、利用者たちは「励みになる」と話している。

同施設は社会福祉法人黒松内つくし園の運営。1997年4月に開所し、町内で半世紀近く営業していた藤田納豆店の事業を引き継いだ。寒暖差が大きいことから味が豊かな地元産大豆を使用している。

主力商品はカップ納豆（35グラム）と合わせ納豆（100グラム）の2種類。同施設

の利用者38人のうち10人が職員とともに製造に当たる。

あんしんQ Q 2025年問題とは？

読売新聞 2018年5月7日

A 団塊世代全員が75歳以上に

戦後間もない1940年代後半にたくさん生まれた世代は、「団塊世代」と呼ばれる。この世代全員が2025年になると、75歳以上になり、人口のおよそ5人に1人が75歳以上になる見通しだ。

これに伴い、医療や介護など、社会保障分野で必要な費用が急増し、国の財政を一層圧迫する恐れがある。このことが、「2025年問題」と呼ばれている。

75歳以上になることに伴って、公的医療保険や介護保険を使うが増える。

介護の場合、心身の機能が衰えて、食事や入浴の際にヘルパーの介助を受けることなどができる介護保険サービスを使うことが多くなる。医療では病院に長い間入院したり、服用する薬の種類が増えたりする。

こうした事情により、社会保障全体の費用も膨らむ見通しだ。年金や子育てなどを含めた費用は、15年度から25年度にかけて2割強増える。

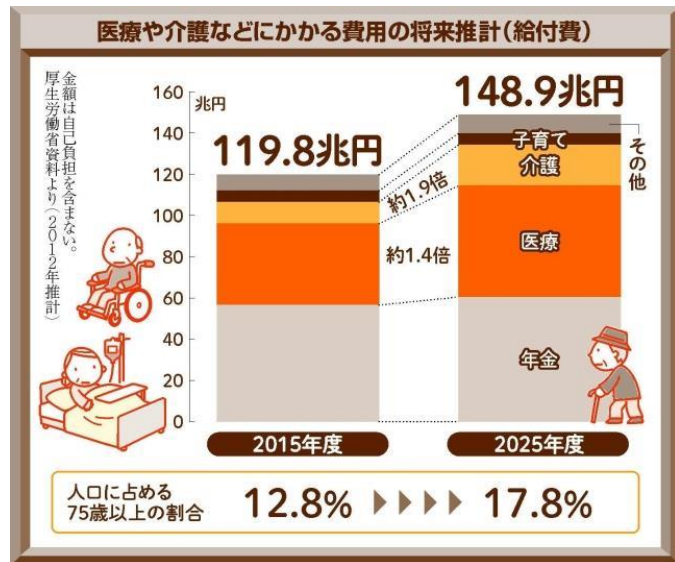
一方で、少子化で支え手が減ることなどから、社会保障に必要なお金を十分に賄えなくなる恐れもある。しかし、急増するニーズに応じて、保険料や税金を上げるのにも限界がある。

このため、国は、社会保障にかかる費用を抑えようとしている。医療では、紹介状なしで受診した患者から特別料金を徴収する病院の数を、今年4月から増やした。介護では今年8月、年金などを比較的多く受け取っている高齢者の自己負担の上限を、現在の2割から3割に引き上げる。

「2025年問題」はお金の話だけではない。1年に亡くなる人が約154万人に上る「多死社会」にも直面する。現在は多くが病院で亡くなっているが、25年頃には、病院だけでは対応できなくな

ることも予想される。このため、自宅や特別養護老人ホームなどの介護施設でも安心して最期を迎えられるよう、みとりの仕組みを十分に整えていく必要もある。

25年まであと7年。社会保障に使う費用が伸びる中、限られた財源をどう有効に使うべきか。私たち一人ひとりに突きつけられた重い課題だ。（板垣茂良）



名護市の津波さんが内館牧子賞 初めてのみに「ただただ感謝」 「忘れられない看護エピソード」

琉球新報 2018年5月6日

【東京】日本看護協会（東京）と厚生労働省が12日の「看護の日」に合わせて毎年実施している「忘れられない看護エピソード」作品の表彰式が6日、都内の看護協会ビルで開かれた。特別審査員で脚本家の内館牧子さんが選ぶ、最優秀賞に次ぐ内館牧子賞に名護市の津波あけみさん（53）が選ばれた。

津波さんは現在、名護市の医療型障害児入所施設名護療育医療センターで看護師として勤務している。もともと支援学校の教員を勤めていたが、「子どもたちと最後まで一緒にい

たい」との思いで一念発起、学び直して38歳から看護師となった。

日本看護協ら主催の「忘れられない看護エピソード」で内館牧子賞を受賞した津波あけみさん（前列左端）と、特別審査員の内館牧子さん（後列左から3人目）＝6日午後、東京都渋谷区神宮前の日本看護協会ビル



特別審査員で脚本家の内館牧子さんから内館牧子賞の表彰を受ける津波あけみさん＝6日、東京都内の看護協会ビル

受賞作品は「初めての看取り（みとり）」と題し、現在の医療センターの前の病院で、看護師になりたてのころ末期がんの患者を初めてみとった体験をつづった。



津波さんは、受賞の連絡を受けた際には「信じられない」と半信半疑だったという。受賞作品は、自身の看護師としての経験を文章に残しておこうと書いたものだった。初めての



のみとりの経験については「みとりというものが恐いものではないと、その人に会えてただただ感謝だった。むしろ積極的にそこに向かっていける自分になった」と語った。

内館牧子賞を受賞した津波あけみさん＝6日、東京都内の看護協会ビル

内館さんは津波さんの作品の講評で「内館賞は『初めての看取り』にすぐ決めた。患者は型どおりのみとりが100人いるより、はるかに幸せに旅立ったのではないか。こういう作品を読むと、看護師は白衣の天使という言葉がよみがえる」と述べた。

「忘れられない看護エピソード」は今年で8回目。全国から3439作品の応募があった。看護師や、患者やその家族らが看護の現場で体験した心温まるエピソードを募集している。表彰式では津波さんら最優秀賞と内館牧子賞の授賞のほか、最優秀賞作品

の朗読などもあった。

障害者が接客、カフェがオープン 京都、本格的なパン製造も

京都新聞 2018年5月7日

約50種類のパンを製造販売するカフェ&ショップ「ふらっと」(京都市伏見区醍醐辰巳町)

障害者がパンの製造販売や接客を手掛けるカフェ&ショップ「ふらっと」が5月7日、京都市伏見区醍醐辰巳町にオープンする。職人の指導を受けて作る約50種類の本格的なパンが特長で、「ふらっと誰でも気軽に立ち寄ってもらえる場所にしたい」という。

障害者の就労支援に取り組む「京都市だいたい学園」が運営。これまで同学園はドーナツなど菓子を主力商品として販売してきたが、大学生協やスーパーなどへの卸売が中心で、ゆっくりと座って食べてもらえる機会は少なかった。寺地ヒサ子園長は「利用者には『この場所で働く』という意識を持ってもらうためにも、地域住民と接する場所が欲しかった」と話す。



用地を探していたところ、隣接する土地を取得することができ、分園として新しい施設を建設。1階に厨房（ちゅうぼう）とカフェを設け、オープンに向けて準備を進めてきた。

府内産木材を使った温かみのある内装で、テラス席も設けた。100円台のパンが中心で、自家製無添加のスープやホットサンドが付いた500円のランチも提供する。

利用者は職人と一緒にパン生地の分割や成型に取り組むほか、包装、接客など幅広い業務を手分けしてこなす。今西香奈さん（37）は「レジの計算などうまくできるか不安もあるが、接客をやってみたいので、就職を目指して頑張りたい」と意気込む。

営業時間は平日午前10時～午後4時。ふらっと075（571）7216。

21歳、後天的「発達障害グレーゾーン」の苦悩 強いストレスが症状を引き起こした？

姫野 桂：フリーライター

東洋経済 2018年05月07日

独自のルールを持っていたりコミュニケーションに問題があったりする ASD（自閉スペクトラム症／旧・アスペルガー症候群）、落ち着きがなかったり不注意の多い ADHD（注意欠如・多動性障害）、知的な遅れがないのに読み書きや計算が困難な LD（学習障害）、これらを発達障害と呼ぶ。

今までは単なる「ちょっと変わった人」と思われてきた発達障害だが、生まれつきの脳の特徴であることが少しずつ認知され始めた。子どもの頃に親が気づいて病院を受診させるケースもあるが、最近では大人になって発達障害であることに気づく人も多い。

発達障害について 10年程前に知り、自身も長い間生きづらさに苦しめられていたため、もしかすると自分も発達障害なのではないかと考える筆者が、そんな発達障害



当事者を追うルポ連載。発達障害当事者とそうではない定型発達（健常者）の人、両方の生きづらさの緩和を探る。

大学生になってから ADHDらしき症状に悩まされることになったという（筆者撮影）

第17回目は、関東在住で「発達障害のグ

レーゾーン」と語る堀内香織さん（仮名・21歳・大学生）。一般的に発達障害は生まれ持った脳の特徴とされているが、堀内さんの場合、大学生になってから ADHDらしき症状に悩まされることになったという。一体どういうことなのだろうか。住まいは関東だが少し離れた地域に住んでいるということで、LINE 電話で取材を行った。

勉強のストレスや過敏性腸症候群から適応障害に

中学までは特に生きづらさを感じることなく過ごしていた堀内さん。しかし、高校の頃にストレスが原因で適応障害に陥ってしまう。

「当時、親から『学歴がすべて』だという洗脳を受けていて、勉強しかしていませんでした。勉強ばかりで人間関係を大切にすることをしなかったのが、1人も友達がいませんでした。また、親しくしていた男性に彼女ができてしまうといった、ショックなことも重なっていた頃、授業中にオナラをしてしまったんです。

そしたら、『また授業中にオナラをしてしまったらどうしよう？』という不安から過敏性腸症候群になり、そのストレスから適応障害を患ってしまいました。私の場合の症状は、『死にたい』という気持ちがずっと続く。適応障害はストレスの原因がはっきりしているうえで起こる障害です。その原因が取り除かれると症状が緩和されて改善に向かう点が、うつ病との違いだと思います」（堀内さん）

適応障害に悩まされる堀内さんを見かねた両親は、ニュージーランドへの留学を勧めた。そして、高校2年生の10月にニュージーランドへ飛び立った。適応障害で体調がいいと言えない中、海外へ行くことに不安はなかったのだろうか。

「英語ができるわけでもないし、外国人とかかわった経験もなかったので、不安だらけでした。ニュージーランドに行ってから、靴を履いたまま家に入ることやバスの乗り方の違いなど、そういう小さな文化の違いがストレスでした」(堀内さん)

当初は日本との違いに戸惑ったものの、徐々に堀内さんの適応障害は回復へ向かっていった。留学先では月曜から金曜までは学校、土日は休日という日本と変わらないスタイルだったが、下校時刻が15時頃で、17時過ぎまで授業があった日本とは違い、放課後自由に遊べたりのんびりできたりした。そして、だんだんと気持ちがポジティブになっていくのを感じた。

日本にいた頃は精神安定剤を服用し、カウンセリングも受けていたがまったく症状が良くならなかった。「海外で生活して習慣が変わったら、最終的に心の持ちようも変わったのかも」と、堀内さん。また、彼女にとってニュージーランドは生きやすかった。

「海外だと自分が『外国人』になります。そうすると現地の人は、自分とは違う異質の存在だという前提からコミュニケーションが始まるので、何か違和感が出てきても『この人は外国人だから違うのか』と、いい意味であきらめてくれる場合が多かったです。その点では楽でした」(堀内さん)

大学の講義を集中して聴けず、不注意が増える

1年半の留学を終え帰国後大学受験に挑み、翌年4月、大学に入学した。帰国当初は、空気を読まなければいけないという日本独特のプレッシャーが大きく、どの程度まで自分らしくいて、どの程度まで日本のコミュニケーションスタイルに合わせていけばいいのかという葛藤が生まれた。そして大学生になってから、ADHDらしき症状が出るようになったのだ。

「大学生になってから集中して講義を聞けなくなっていました。特に、講義が始まってからすぐは集中できず、読書したり寝たりしていました。子どもの頃にはそのようなことは特になかったと記憶しています」(堀内さん)

高校までの授業時間は50分だが、大学の講義は通常90分。筆者が「時間が長いせいで集中力に欠けてしまったのではないか?」と思い尋ねてみると、時間は関係なく、その講義に興味を持てるか・持てないかの問題だという。

また、それまでにはなかった衝動的な行動や不注意を起こすようになった。対人ではないものの、縁石に乗り上げてしまい車の事故を起こす。家の鍵をなくして3カ月間部屋の窓から出入りをしたりしたこともあった。母親からは「どうして大学生になってからこんなにちゃんとできなくなっちゃったの」と小言を言われた。

検査の結果、能力のアンバランスが判明

そんな堀内さんを心配し「ADHDじゃないの?」と指摘したのが、大学でいちばん親しい友人だった。それまではADHDという言葉も知らなかったが、ネットや本で調べてみると今の自分に当てはまるが多かった。そこで大学の保険センター内の精神科で発達障害かどうか検討をつけるテストのWAIS-IIIを受けたところ、臨床心理士から「能力にアンバランスがある」と言われた。

「たとえば、聴覚から入る情報の短期記憶がほとんどできませんでした。日常生活では、明日何時に何の予定があると言われたら、メモをしないと忘れてしまいます。バイトの出勤日を忘れたこともあります。いちばん顕著に自分ができないと感じたのが、初対面の人が大人数で集まり、円になって行う『名前覚えゲーム』。『私の名前は香織です』と言ったら、隣の人が『香織の隣にいる私は●●です』と言い、3番目の人は『香織の隣にいる人は●●で、その隣にいる私は▲▲です』という風につなげて回していくゲームです。自分はまったくできなくて浮いてしまい、とても嫌な思いをしました。

逆に、一番秀でていたものは抽象的概念を論理的に考えるテストです。たとえば、『“地震”

と“津波”という単語を聞いた際、これに共通しているものは何ですか?』と聞かれた際、パッと『自然災害』という答えを出せるとか」(堀内さん)

WAIS-IIIは発達障害かどうか診断を下すためのテストではなく、傾向を見るテスト。だから、このテストを行った臨床心理士ははっきりと「発達障害」という診断をくださなかったのではないかと、堀内さんは語る。

しかし、冒頭でも述べたが発達障害は先天的な特性というのが一般的だ。後天的に発達障害の症状が出るケースがあることは今まで当事者を取材してきた中では聞いたことがない。「いろんなサイトや本を読んで調べていたら、アメリカの研究結果で『ADHDは先天的なものだけでなく、強いストレスにより前頭葉と扁桃体が萎縮した結果、ADHDのような症状が後天的に出る可能性も考えられる』と書かれていました。まだ研究中なので根拠は薄いですが、高校時代のストレスにより発達障害のような症状が出るようになったのではないかとという仮説を自分なりに立てました」(堀内さん)

本連載の第1回となった「23歳、『発達障害』の彼が抱える生きづらさ」(2017年11月22日配信)でも紹介した、「BMC Psychiatry」に掲載されている Martin A. Katzman, Timothy S. Bilkey, Pratap R. Chokka, Angelo Fallu, Larry J Klassen らによるイギリスの論文「Adult ADHD and comorbid disorders: clinical implications of a dimensional approach」(大人のADHDと併存疾患: 次元的小説的アプローチの臨床的意義)にも、ADHDと前頭葉の働きは関係している可能性がある」と述べられている。

瞑想状態に入ると薬を飲んだときのような状態に

堀内さんの場合、あくまでも自己診断での「発達障害グレーゾーン」だ。専門の病院を受診することも可能だが、費用も時間もかかるため、診断を受けるかは検討中だという。しかし、診断をくだされなかったとしても、能力にアンバランスがあることは確かで、それによって社会生活が困難になることに変わりない。そのため今は、さまざまな情報をもとに、自分の認知の歪みや症状をどのようにカバーするかを自力で模索中だ。その方法の1



つとして試しているのがヨガ。

症状をどのようにカバーするかを自力で模索中だ(筆者撮影)

「ヨガを始めて1年ほど経ちます。今は毎日ヨガ教室に通って、1時間ヨガをしています。ADHDの人は脳にいく血流が少ないので、それが脳の働きを低下させる原因だと読んだ本に書かれていたからです。

ヨガは『動く瞑想』と言われていて、難しいポーズを取ろうと集中しているときに瞑想状態に入ります。

1時間くらい瞑想状態を継続すると、終わった後は頭がすごくスッキリするんです」(堀内さん)

「また以前、ADHDの薬であるストラテラのジェネリック『アクセプタ』を個人輸入して取り寄せ、飲んでいました。普段は頭の中にずっと雨雲のようなものがあって大雨が降り続けているような状態なのですが、それを飲むと雲がなくなったような状態になります。それがおそらく、定型発達の人々の脳の状態だと思うんです。ヨガで1時間瞑想状態に入った後は、アクセプタを飲んだときのようなぱっと晴れた状態になることを実感しています。今はもう、アクセプタは飲んでいません」(堀内さん)

グレーゾーンが理解されにくい理由

発達障害と診断されている人の生きづらさはこれまで紹介してきた。しかし、堀内さんはグレーゾーンならではの生きづらさがあると語る。実際、この連載も「生きづらさ」でネット検索をかけて見つけたという。

「以前はADHDらしき症状自体で生きづらいなと感じていました。でも、自分を客観視するようにになると、自分の弱点が見えてきました。それをヨガなどでカバーしようとするよ

うになってから、生きづらさは減ってきました。

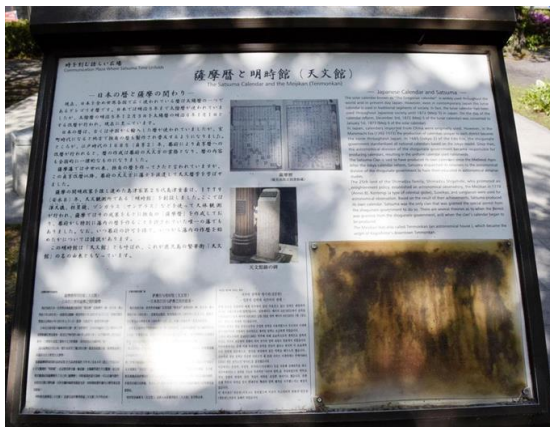
でも、やはりグレーゾーンの方は発達障害の人からも定型発達の人からも、どちらの方向からも理解されにくいのではないかと感じます。発達障害の方は医師の診断も受けているし、ある能力が極端に発揮できないから、理解を得られる部分があります。そして、定型発達の方はバランスよくいろんなことができる。

だけど、グレーゾーンの方は医師の診断もないし、できないことが多いわけではないけど、できないこともある。程度の問題だとは思いますが、『それくらいのことは定型発達の人にも当てはまるよ』と言われると言いつ返しませぬ。だから、自分の脳の特性のせいにしにくいなと思います」(堀内さん)

筆者は堀内さんのほかにも「病院を受診していないが、おそらくグレーゾーンの発達障害だと思う」と言う人を何名か知っている。ぱっと見ただけでわかる身体障害と違い、発達障害の生きづらさは一見見えづらい。しかし、発達障害グレーゾーンの生きづらさはもっと見えづらいものなのではないか。堀内さんの話を聞いてそう思ったが、海外の論文を読んで調べたり、認知の歪みを矯正しようと努めたり、ヨガに挑戦したりと、自ら生きづらさを解消するための手立てを探している点に、彼女のこれからの可能性を感じた。

維新散策路で点字表示ミス 設置の鹿児島市に苦言も 産経新聞 2018年5月7日

「維新ふるさとの道」がある公園の案内板。右下の点字板に汚れが目立つ＝4月18日、鹿児島市



鹿児島市の「維新ふるさとの道」に設置され、大きく振り返った案内点字板＝4月19日

明治維新 150 年に合わせ、多くの観光客が訪れている鹿児島市の歴史散策路「維新ふるさとの道」で、案内の点字板に多数の間違ひが見つかり、設置した市が対応に乗り出した。点字板の位置も低く「監修をしっかりとしてほしい」(関係者)と、利用者への配慮を求める声が出ている。維新ふるさとの道は、約 440 メートルに大久保利通の生い立ちの地など明治維新に関する展示や再現した武家屋敷などを整備。点字板は単語の間に入れるべきスペースの欠落などがあり、鹿児島県視覚障害者団体連合会の青年部長南明志さんは「スペース一つの有無でも影響は大きく、読みづらくなる」と苦言を呈している。

「維新ふるさとの道」を含む一帯の公園を管理する鹿児島市観光交流局の担当者は、翻訳から設置まで市内の看板業者に一括注文し、監修に細かい注文はつけなかったと釈明。「早急に対応したい」としている

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

